

「大月みらい協議会及び大月市生きがい創生委員会専門部会合同会議」 会 議 概 要

日 時 平成27年9月3日（木）午後7時から午後9時

場 所 大月市民会館 4階視聴覚室

出席者 ◆大月みらい協議会委員16名（4名欠席）

天野太文、小笠原則雄、小俣理美、梶原崇照、小鷹侑子、三枝良光、佐藤茂幸、志村淳、中島啓介、仁科美芳、新田澄郎、藤井真弓、星野喜忠、三木範之、武者稚枝子、渡辺勝

◆大月市生きがい創生委員会専門部会構成員9名

【少子化対策部会】 井上久、久保田一正、榎本貢之

【移住定住対策部会】 石井康雄、小林信一、堀内宏樹

【地域活性化等対策部会】 市川学、鈴木邦彦、梶原春生

【事務局】 企画財政課上條課長、地域活性化担当石井リーダー、山田

1. 星野議長あいさつ

皆さんこんばんは。今日はお忙しいところ、大月市の生きがい創生委員会専門部会の皆様にご同席いただき合同会議を開催できることを大変うれしく思います。

私ども大月みらい協議会は、今まで1月以来7回の会議を開催してきました。そのような中で、ワークショップを開催し、大月が今後、抱えていく課題を私たち市民の目線で議論を重ね、82件のアイデアを出してみました。それらを全部やることはできませんが、その中で、大月市がやらなければならないこと、すぐに手をつけたいこと、あるいは未来において手を付けなければならないことに分け、優先順位を付けて進めていきたい。それにはまず、大月市の生きがい創生委員会で、どんなことをお話しになられたのか、あるいは検討されたのか、ご意見やご指導をいただきたいと思っております。

ここにいる大月みらい協議会の委員の方は、実業の世界にいらっしゃる方々です。そうは言っても意見は様々です。1つの案件があれば5つや6つの意見や考え方が出てきます。そのような中で一つの方向性を持って、決めていきたいと考えております。今日は部会ごとに分かれ、皆さんと意見交換を進めていきます。また、お時間をいただくこととなりますが、どうぞよろしく申し上げます。

今日の会議の目的については副議長である大月短期大学教授の佐藤先生にお願いをしております。佐藤副議長、よろしく申し上げます。

■ 合同会議の目的について

【佐藤副議長】

皆さんこんばんは。今、星野議長から話しがあったとおり、今日は合同会議という形で、いつもとは違った風景で進めさせていただきます。今一度、目的についてご説明いたします。我々大月みらい協議会にとっては、いよいよ市の方に意見が言えるぞということもあるのですが、ねらいと目的を確認した上で、有効な会議にしていきたいと思っております。

まず我々大月みらい協議会の目的は2つあると思っております。1つ目は、今までの会議の中で82件のアイデアを出すことができました。これは既に市へ提示させていただいております。そのアイデアの実現性について、今日の合同会議を通じて我々は検証していきたいと思っております。82件のアイデア全部は出来ませんが、どのくらい出来るのか、あるいは出来ないのかということは大月市生きがい創生委員会専門部会の皆さんから意見を聞きたいと思っております。2つ目は、これから部会が始まろうとしています。その部会の目的は、もう少し、よりエッジの立った企画を作っていこうという第2段階に入っております。その企画のヒントを今日の合同会議で大月市生きがい創生委員会から得ることができればと思っております。この2つの目的で合同会議を進められたらと考えております。

また、僭越ながら、大月市生きがい創生委員会専門部会の方もある種の目的があるのではないかとと思っております。これも2つあると思っております。1つ目は、大月みらい協議会自体が市民の会議ですので、市民提案をどうやって市の方でも実現していくかということがあると思っております。合同会議はそのきっかけになればと考えます。2つ目は、大月市生きがい創生委員会専門部会でも、いろいろな政策や事業を考えているかと思っておりますが、その考えている事業や政策の有効性を市民の方からもチェックをさせていただければと考えております。

そのような趣旨で、それぞれ2つの目的で進められたらと思っておりますので、何卒よろしくお願いたします。

2. 議事

(1) 大月市生きがい創生委員会専門部会の概要について

少子化対策部会井上部会長、移住定住対策部会石井部会長及び地域活性化等対策部会市川部会長から、それぞれ大月みらい協議会からのアイデアに対する意見の検討経過及び概要の説明を行った。

(2) 大月みらい協議会のアイデアに対する意見交換について

大月みらい協議会及び大月市生きがい創生委員会専門部会がそれぞれグループに分かれて意見交換を行った。

【グループ1】 大月みらい協議会Aグループ（雇用の創出、交流・移住・定住対策）

大月市生きがい創生委員会移住定住対策部会

【グループ2】 大月みらい協議会Bグループ（暮らしやすいまちづくり）

大月市生きがい創生委員会地域活性化等対策部会

【グループ3】 大月みらい協議会Cグループ（少子化対策、人材育成・教育）

大月市生きがい創生委員会少子化対策部会

（3）意見交換内容の概略

【グループ1】 発表者：大月みらい協議会 三木委員

私たちのグループでは、大月市生きがい創生委員会の移住定住対策部会と意見交換を行いました。1つ目として、空き家の有効活用について意見交換を行いました。現在、市では空き家所有者に対してアンケートを取っている状況のようで、その中で、空き家の概念について、自分が思ったものとは違っていました。例えば、普段は空き家のようにあっても、お墓参りに来るときにその家を拠点として使うケースがあり、私たちが判断する空き家とかい離している部分がありました。空き家の考え方自体をもう少し考えて、有効活用するためにマッチングさせるには、細かい対応が必要であると感じました。

2つ目として、住宅政策、特に公営住宅について意見交換を行いました。大月市の市営住宅には現在空きがあるのですが、市営住宅の入居には所得制限があり、低所得者向けとなっているため、働き盛りの一般の方が入居することは難しい状況があるようです。空があるのであれば、もっと広く多くの方に貸せばいいと思いがちですが、大月市というより法律の部分でそうはいかない状況があります。先ほどの空き家の部分と重なりますが、駅の近くで良い状態の空き家があれば、有効に貸せるように、市がバックアップしたり、マッチングしたりする方が有効ではないかという意見がありました。

3つ目として、教育、特に図書館について意見交換を行いました。大月市には機能的によくできているすばらしい図書館があります。まず、それを有効に活用するということで、仁科館長が積極的に活動されていることを市が市民の方に広く伝えて、小さなお子さんから大人まで多くの方に利用していただいて、教育の一環として有効に活用していただきたいという意見がありました。

4つ目として、CCRC、介護施設の建設について意見交換を行いました。大月市としての特徴とコストをしっかりと踏まえた上で、高齢者の受け入れに対応できないという大きな問題があります。その部分をクリアした上で、CCRC、介護施設の建設について、大月市なりの独自の対応で考えていく必要があるのではないかという意見がありました。以上です。

【グループ2】 発表者：大月みらい協議会 中島委員

私たちのグループは、大月市生きがい創生委員会の地域活性化等対策部会と意見交換を行いました。冒頭、私たち大月みらい協議会Bグループのテーマ「暮らしやすいまちづくり」と大月市生きがい創生委員会の「地域活性化」という部分は、リンクするようで、まったく別の方向性を含んでいて、まずそこでどのような方向性を目指すべきなのかということから意見交換を行いました。

まず、暮らしやすいまちづくりのテーマの中で、アイデアが一番多かった、「大月に来た人に対してどのように満足してもらえるか、あるいはリピーターになってもらえるか」という内容について意見交換を行いました。例えばトレッキングで来る人はやはりお風呂が必要だという意見が以前から出ていましたが、その際の受け入れる側としての大月市側の整備の状況や、それをどのように情報発信していくかという手法等について、たくさんアイデアをいただきながら意見交換を行いました。さらに、大月の農作物を提供する場合も、来てもらった人に喜んでもらって、かつ、大月に元々住んでいる人に対してもメリットがあり有益なものでなければならないという意見もありました。

やはり、大月に来てもらった人たちだけではなく、大月に元々住んでいる人たちが、いかに満足してもらえるかということも踏まえた上で、私たちのグループは企画を検討しなければならないのかなという話しになりました。

最後に出た意見で、なるほどと思ったことがありました。大月の人は、大月のことを知らない人が意外と多いということです。私は山へ登るのですが、大月の人でも、大月の山へ登ったことがない方が結構たくさんいらっしゃいます。山でなくても、大月の所々には魅力的なものがたくさんあります。自分が知らなかっただけ、皆さんが知らなかっただけであって、良い所はたくさんあると思います。大月に人を呼び込むだけではなくて、大月に住んでいる人たちが大月の良い所をよく知って、大月に住んでいる人たちが、大月の魅力を体感するということ踏まえ、大月の外にも中にもメリットを受容できることを増やすべきだと意見がありました。

【グループ3】 発表者：大月みらい協議会 武者委員

私たちのグループは、大月市生きがい創生委員会の少子化対策部会と意見交換を行いました。大月市生きがい創生委員会の少子化対策部会のテーマが「少子化・教育」であり、私たち大月みらい協議会Cグループのテーマにも「教育」があったことから、教育に関心を持っている方が非常に多くいらっしゃいました。

先ほどの中島委員の話しにもあったように、郷土愛について、大月の良い教育、「大月っ子」って、どういうことを目標にして育てていったらよいのか？というところから意見交換が始まりました。市の専門部会の方たちは、郷土愛について、大月が大好きな子どもが多くても、それがいつしか社会人になっていくと大月から離れていってしまう現状って

なんだろう？と考えたときに、きちんとしたふるさと教育をして、郷土愛を持って、出て行った大月の方たちが戻ってきて、大月へ住むような教育が出来たらいいなということを考えているという話がありました。

また、学力について、山梨県の小学校と中学校の学力テストの結果が発表されましたが、年々学力が低下しているということがありまして、今年の夏に、大月でも学力のフォローアップを目的としたサマースクールが開かれたという報告もありました。

意見の中で、子育てのときに教育や漠然とした郷土愛以外に、この変わっていく社会の中で、「大月人」という言葉を前回の会議でも話しをさせていただきましたが、自分の意見を持って、どんなことでも自分の頭で考えて生き抜いていける子どもたちを育てるにはどうしたらいいかということと考えたときに、学力偏重でいく子どもたちよりも、もっと自由に自分たちで考えて遊び、経験させることが必要であるという意見がありました。今の子どもたちは、残念ながら大月でも子どもたちの居る場所が限られていて、子どもたちが自分の頭で考えて、経験できる機会が少ない事実があります。そうではなくて、大月は「自然児が育つ」ということを売りにして、大月に来れば、人間らしく、昔ながらの本来の人間らしい子どもが育ちますという環境を整えていったらどうかという意見が今回の意見交換の中心にありました。

いろいろなことを考えて遊んでいる子どもは、大人になったとき、いろいろと困難があったときも、それを自分の中で努力できます。今、努力できない若い人が多いという意見もありました。自分で考えて、自分で何とか努力して生き抜いていける子どもたちを育てることが大月の大きな主軸になるのではないかとあります。ただ、大人の側の教育も必要であるという意見もありました。皆がいい子を育てようとするれば良いのですが、中には自分自身に余裕がなかったり、「子どもなんて…」という方もいらっしゃいます。教育ができない、愛着が持てない、あるいは親がいないという状況の子どもたちがいるのも事実です。0歳～3歳までのそのような状況の子どもについて、親や家族が子育てを担えない状況であっても、大月市で生まれ育った子は、人として信じることや自信を持って生きていけるような人に育てられればいいなという意見や、そうは言っても難しいという意見などが出ました。

また、意見交換の中で、市が子育て向けのいい企画を考えるとき、参加する方というのは実はいろいろと考えている人で、本来参加していただきたい方たちは中々参加してくれない現状があり、そこが穴になっているという話もありました。以上です。

【佐藤副議長 総括】

皆さんどうもありがとうございました。大月市生きがい創生委員会専門部会での検討状況が、かなりの時間と労力をかけて82件のアイデアを検証していただいたということがわかりました。このアイデアは何らかの形で、市の方にも活用していただけるのではないかなと確信めいたものを感じることができました。

大月みらい協議会の方では、いろいろな情報を得ることができましたので、そこから「大月ならでは」という企画に持っていけるかどうか、チャレンジが出来るかどうかを大月みらい協議会の中で進めていけたらと考えています。今日はどうもありがとうございました。

3. その他

【次回会議について】

第8回会議は、9月17日（木）午後7時から市民会館において、部会を同時に開催する予定。